

## 馬洗の池

匠探訪

169

田植えの済んだ干潟八万石は、日ごとに緑が増すことでしょう。

椿海の干拓工事は1670(寛文10)年湖にたまっていた水を太平洋に落とす排水路掘りから始められました。

翌年から2年をかけて干拓地(新田)の用水源としての溜井(ため池)と、用水路としての総堀(惣堀)の築造工事が行われました。

干拓された耕地は1674(延宝2)年から売り出され、20年余り経た1696(元禄9)年に「新田18か村」が成立し、市域では春海村(椿海地区)と米持村(豊和地区)が誕生しました。

14造られたため池のうち、市域には「馬洗(椿村、飯塚村境)」、「蛭田(飯塚村)」、「松の木(大寺村)」、「亀城(大寺村、鐺木村)」の4つがあり、

春海村などの用水源となりました(かつこ内の村名は当時の所在地)。

今回紹介する馬洗の池は、当時約4ヘクタールほどありました。馬洗の地名には次のような伝説があります。

昔、飯塚に城があつて飯塚左馬助が城主でした。家来たちが城に登る際、この池で馬を洗ったことからそう呼ばれるようになったとされます。

池のそばには金毘羅神社があり、境内の庚申塔や二十三夜塔が「寄島講中」により祭られたことが知られます。

干潟八万石や周辺村々は、大干ばつや洪水などに長い間苦しめられましたが、1935(昭和10)年から工事が進められた大利根用水改良事業により徐々に被害を減らすことができました。

そうして役目を終えたため池も次第に姿を変えました。

(市文化財産委員会委員)

依知川雅一

閩秘書課広報広聴班

☎73・0080



馬洗の池跡地